



〒 242-0007 大和市中心林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話/Fax 046-272-8980 Email: toiwase@edventure.jp URL <http://edventure.jp/>

私たちがさらされているメッセージ

スーパーのレジで並んでいると、目の前にお母さんと小さな女の子。その女の子のかわいらしい手には、なにやらお菓子がしっかりと握られている。お母さんが精算を済ませた後、促されて女の子は背伸びをしながらお菓子と、もう片方の手に握りしめていたお金をレジ台の上に置いた。お母さんに買ってもらうのではなく、自分で「買い物」をした女の子は、満足そう。これは、たまに見かけるほほえましい光景の一つだ。

精算を終えて自分の商品を袋に詰めながら、しかしながら、ほほえましいと感じつつ、何か引っかかると感じる。それは、小さな子どもが、社会に対しての初めて経験が「消費」であるという点だ。家族の構成員として社会に出会うのでもなく、労働によって何かを作り出すことで社会と関わるのでもなく、ただ「消費する個人」として子どもたちは社会の中で出発するのだ。そして、その「消費する個人」としての「性能」は、成長に従って大きなものとなっていく。子どもは「消費する者」として成長を続けていく、と言ってもよいのかもしれない。習い事もスポーツも、勉強も趣味も、友達とのスマホでのやりとりも、すべては消費活動として絡め取られているのが現実なのだ。そして、消費行動は、より刺激的な、より感情的な情報によって操られ、誘導されていく。もちろん、子どもの前には大人がいる。大人自身がこうした消費を望み、消費を豊かさとしてきたことを、子ども達はちゃんとメッセージとして受け取っている。

こうしてちょっと立ち止まって考えてみると、いったい子どもたちが毎日生活している空間がどんな空間なのか、気になってくる。それはまた、子どもたちがどのような価値観に出会っているのか、という問題でもある。

さて、それでは学校であるが、学校で子どもたちが先生から一番強く受けているメッセージは何だろうかと考えてみた。「ゆっくり成長すればいいんだよ」(そうか?)「人と競争するのではなく、自分のいいところを伸ばすようにがんばればいいんだよ」(そうか?)「学校は、うまくいかないときがあっても、何度でもチャンスを与えるところだよ」(そうか?) 残念ながら、40人近い子どもたちを一人の先生が抱えている現在の教室では、そうなっていないようだ。しかもそこで出会う価値観は、これらとは逆のものなのかもしれない。

「ついてこられない者は、置いていくよ」(!)「人と競争に勝てないと、なにをやっても意味がないよ」(!)「いまの結果がそのまま人生の結果につながっているんだ」(!)

先生方一人ひとりの思いは別だったとしても、残念ながら学校がこうしたメッセージを子どもたちに強く発信しているのは事実だ。

「この場から落ちると大変だよ」

「うまくいかないのはその子の責任」

「全員の子どもが同じ気持ちを持ってまとまるのがとても大切なことだ」

このような「不安を掻き立てるメッセージ」を、先生方が子どもたちの前で見つめ直し、今までとは違った方向への一步を踏み出すことからしか、「教育」は始まらない気がする。

Ed.ベンチャーが委託を受けて、A市で毎週水曜日の夜に開催している学習会に面白い中2の男の子がいる。なにが面白いのかというと、まずこの男の子は絶対に休まない。どんなに雨

がひどいような日でも、彼はやってくる。だが、彼は絶対に勉強をしない。でも、親には「ただで勉強を見てくれる塾に行ってくる」と説明して出かけてくるのだ。いつも自分の勉強はせずに、勉強している他の子どもたちをからかっているが、時には筋トレをやっている。彼に「せっかく来ているのだから、勉強しようよ！」と声をかけると、こちらの目をまっすぐに見て答える。「いやだ！俺は勉強しない」と。そしてまた、他の子にちょっかいをかけるのだ。こうなるといったい何をしに来てるのか不思議になる。しかも休むことなく。

ひょっとしたら、彼は「勉強しない」という宣言をするために来ているのかもしれない。「俺は勉強しない」なんて、決して学校では言えない言葉だ。言ったら、叱られるか、担任の先生に見捨てられて、もう相手にしてもらえないかもしれない。だから決して言えない。だけど、学習教室だったら言える。しかも思いっきり！！気持ちいいだろうなあ・・・。

そんな彼の気持ちは、学校ではわかってもらえないだろうなあと思う。

だけど学習教室のスタッフ達は、「俺は勉強しない！」と彼が 500 回くらい叫んだら、やがて勉強してくれるのではないかと思っている。子どもはいつまでも同じところにとどまっただけでいいし、学習教室側だって、それを待つゆとりくらいはあるさ。スタッフはそんな風にかまえることにしているのである。

都市圏への一極集中が止まらない。三大都市圏の人口は、全国の人口の 6 割近い。東京だけだって、全国の 3 割を超える人が住んでいる。こうなると、「日本」とか、「全国」という言葉は単純には使えなくなってくる。なぜなら、都市部と地方では、その事情が全く違うからだ。しかしなんだかんだ言っても、国の動きはますます都市圏集中を促すかのような動きだ。「仕事もある。おいしいものもある。豊かさは都市部にあり」だ。地方の若者に送られているメッセージは強烈だ。「遅れるな」「早く」「優秀な者は都市部へ行こう」「地方にいて、いいことはないだろう」・・・などなど！

教室の中と同じように、地方でもまた「不安を掻き立てるメッセージ」にさらされるのだ。

これだけたくさんの情報にあふれ、自由であるはずの現代だけど、実は「選択肢」はないのだ。私たちはこうしたメッセージにさらされながら、誰もが同じ答えを選ばされているのではないだろうか。もし別の選択肢を私たちが探そうとしたら、「俺は勉強しない！」と言えそうな場所をお互いが保証し合うことからしか始まらないのかもしれない。

8・9・10月のEd.ベンチャーの学習会

理論学習会 ●10月15日(月)授業実践報告会

授業研究会〈労働教育〉 ●8月30日(木)模擬授業 ●9-10月各実践者の実践授業

スタディツア ●10月11日(木)自立支援ホーム「みずきの家」への訪問に関する事前学習会

ママパパのための学習会 ●9月8日(土)講演会「地域で育てる子ども、地域が育つ子育て」講師：高橋勝氏(横浜国立大学名誉教授)

外国人の子ども理解のための学習会●8月6日(月)～7日(火)集中講座全9コマ

特別支援教育のための学習会●8月31日(金)・9月14日(金)ティーチャーズ・トレーニング講師：海老名裕美氏(社会福祉法人大和しらかし会 地域支援担当 臨床発達心理士)

※時間・場所等の詳細はHPをご覧ください。

【理事のつぶやき】

日本語学校の掲示板にはアルバイト募集の広告が貼ってあります。5、6年前まではありませんでした。以前は来日後半年くらいはアルバイトをしなかったものですが、今は1、2カ月後にはもう始めています。日本の労働力不足がここに如実に表れています。学生たちは、コンビニ、弁当工場、宅配のピッキング、新聞配達など昼夜を問わず働いて、日本経済の底辺を支えています。コンビニ弁当を食べる時、宅配を受け取る時、新聞をポストから取る時、ちょっと留学生に思いを馳せてみて下さい。(FK)